



2020年12月17日

各 位

会社名 か っ こ 株 式 会 社
 代表者名 代表取締役社長 CEO 岩井 裕之
 (コード番号: 4166 東証マザーズ)
 問合せ先 専務取締役管理部門管掌 CFO 関根 健太郎
 (TEL. 03-6447-4534)

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2020年12月17日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2020年12月期（2020年1月1日から2020年12月31日）における当社の業績予想は、次のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【個別】

(単位：百万円、%)

項 目	決算期	2020年12月期 (予想)		2020年12月期 第3四半期累計期間 (実績)		2019年12月期 (実績)		
		対売上 高比率	対前期 増減率	対売上 高比率	対売上 高比率			
売 上 高		808	100.0	108.5	619	100.0	745	100.0
営 業 利 益		116	14.4	117.9	128	20.7	99	13.3
経 常 利 益		91	11.3	100.1	121	19.5	91	12.3
当 期 (四 半 期) 純 利 益		96	11.9	84.1	129	20.8	114	15.4
1株当たり当期(四半期) 純利益金額		41円03銭			55円23銭		48円99銭	
1株当たり配当金		0円00銭			—		0円00銭	

- (注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりません。
2. 2019年12月期(実績)及び2020年12月期第3四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益金額は期中平均発行済株式数により算出しております。
3. 2020年12月期(予想)の1株当たり当期純利益金額は公募予定株式数(245,000株)を含めた予定期中平均発行済み株式数により算出しております。
4. 2020年9月9日付で、普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。上記では、2019年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期(四半期)純利益金額を算出しております。

【2020年12月期業績予想の前提条件】

1. 当社全体の見直し

当社は「未来のゲームチェンジャーの『まずやってみよう』をカタチに」という経営ビジョンを掲げ、当社の有するデータサイエンスの技術とノウハウをもとに、アルゴリズム及びソフトウェアを開発・提供することで、企業の課題解決やチャレンジを支援する「SaaS型アルゴリズム提供事業」を展開しております。

特に、EC分野において、近年急増するオンライン決済での不正対策として、代金未払いとなり得る注文をリアルタイムに検知するSaaS型サービス「0-PLUX（オーブラックス）」を主力製品とする「不正検知サービス」を展開しており、当社事業の中核サービスと位置付けております。

当社の属する消費者向け電子商取引（BtoC-EC）市場は、経済産業省による2019年の調査「令和元年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（電子商取引に関する市場調査）報告書」によると、前年比7.65%増の19.3兆円となり、依然として高い成長率を維持しております。一方、クレジットカード番号等の情報を盗まれ不正に使われる「番号盗用被害」が急増しており、一般社団法人日本クレジット協会が発表した「日本のクレジット統計 2019年版」によりますと、2019年の番号盗用被害額は前年比約19%増の約223億円に達しております。こうした状況を受け、改正割賦販売法においては、クレジットカード番号等の不正な利用を防止するために必要な措置を講じることが義務化され、また、その実務上の指針となる、「クレジットカード・セキュリティガイドライン1.0版（クレジット取引セキュリティ協議会）」においては、非対面取引におけるクレジットカードの不正利用対策として、加盟店に対して「属性・行動分析（不正検知システム）」等の方策をリスク状況に応じて導入することが求められるなど、不正対策に対する社会的要請はますます高まっております。

このような状況のもとで、当社は、引き続き不正検知サービス「0-PLUX」の販売拡大に努め、既存顧客の持続的な成長とともに、積極的なマーケティング活動による認知度向上及び新規顧客開拓に努めており、2020年12月期は、売上高808百万円（前期比8.5%増）、営業利益116百万円（前期比17.9%増）、経常利益91百万円（前期比0.1%増）、当期純利益96百万円（前期比15.9%減）となる見込みであります。なお、当該予測数値は、2020年1月から2020年9月までの実績数値に、2020年10月から12月までの予測数値を合算して策定した数値となっております。

なお、新型コロナウイルス感染症による当社業績への影響につきましては、当社が属するEC市場において外出自粛による巣ごもり需要を契機にECサービスの利用が拡大傾向にあるものの、先行きの不確実性が高いものと判断し、上記の業績見直しにはその影響を織り込んでおりません。一方で、経済活動の停滞が長期化し、企業収益の悪化に伴う投資の慎重化が顕著となった場合は、新規案件の獲得が計画通りに進まない可能性があり、当社業績に影響を及ぼす可能性があります。当社は、今後も新型コロナウイルス感染症による社会・経済への影響を注視し、当社事業への影響について慎重に検討したうえで、業績の修正が必要と判断した場合には速やかに開示していく方針であります。

2. 個別の前提条件

（売上高）

当社はSaaS型アルゴリズム提供事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しておりますが、SaaS型アルゴリズム提供事業の売上高は、不正検知サービス、決済コンサルティングサービス、データサイエンスサービスの各売上高で構成されております。

① 不正検知サービス

不正検知サービスの主要製品である「0-PLUX」の収益構造は、初期導入料金等のスポット収益と、定額課金である月額料金及び審査件数に応じた従量課金である審査料金からなるストック収益で構成されております。

売上高の予測数値は、既存顧客と新規顧客に分けてそれぞれ策定しております。既存顧客については、主とし

て「O-PLUX」の前期末におけるストック収益額の実績値をベースに、審査件数の前期実績成長率をもとに算出した既存顧客のストック収益増加見込額を合算して見積売上高を算出しております。また、新規顧客については、前期実績導入数をもとに、決済代行会社、ECパッケージ・ショッピングカートベンダー等との連携推進、オウンドメディアの運営をはじめとしたWEBマーケティングの強化等、2020年12月期に計画している営業施策の効果等を総合勘案して設定した新規導入見込数に、前期実績に基づく1顧客あたりの初期導入料金及び1顧客あたりのストック収益額を乗じて見積売上高を算出しております。これら既存及び新規顧客の見積売上高の合計額に、解約によるストック収益の前期実績減少率をもとに算出したストック収益の減少見込額を合算し、全体の見積売上高を算出しております。

以上の結果により、不正検知サービスの2020年12月期第3四半期累計期間の売上高は、既存顧客の審査件数増加を背景としたストック収益拡大により485百万円となり、2020年12月期通期の売上高は、658百万円（前期比11.3%増）を見込んでおります。

② 決済コンサルティングサービス

当社の決済コンサルティングサービスは、主に後払い決済を提供する後払い決済事業者に向けて、当社の後払い決済に関するノウハウをもとに、決済システムの提供及び後払い決済事業の立上げ・運用のコンサルティングを行っており、収益構造は、コンサルティング料金及びシステム開発料金からなるスポット収益と月額システム保守料金からなるストック収益で構成されております。

売上高の予測数値の策定にあたっては、既存顧客については、前期におけるストック収益額の実績値をベースに、受注済及び受注確度の高い新規案件の積み上げにより算出したスポット収益及びストック収益を合算して見積もっております。また、新規顧客については、受注済及び受注確度の高い新規案件の積み上げにより算出したスポット収益及びストック収益を合算して見積もっております。なお、受注確度の高い案件については、顧客からのヒアリングをもとに、受注予定金額及び予定時期を見積もったうえで、予想売上高を算出しております。

以上の結果により、決済コンサルティングサービスの2020年12月期第3四半期累計期間の売上高は、既存顧客のシステム開発案件の受注が進み、91百万円となりましたが、第4四半期においては前年同期に比べて受注が低調であることから2020年12月期通期の売上高は、99百万円（前期比7.2%減）を見込んでおります。

③ データサイエンスサービス

当社のデータサイエンスサービスは、マーケティングや業務生産性などの課題に対し、企業が保有するビッグデータを、AI、統計学、数理最適化等データサイエンスにおける最適な技法を用いて分析し、アルゴリズムを開発・提供するサービスであり、収益構造は、データ解析料金等からなるスポット収益及び分析支援コンサルティング料金、システム運用料金等からなる月額ストック収益で構成されています。

売上高の予測数値の策定にあたっては、既存顧客については、前期におけるストック収益額の実績値をベースに、受注済及び受注確度の高い新規案件の積み上げにより算出したスポット収益及びストック収益を合算して見積もっております。新規顧客については、過年度の受注実績をベースに、受注済及び受注確度の高い新規案件の積み上げにより算出したスポット収益及びストック収益を合算して見積もっております。なお、受注確度の高い案件については、既存顧客からのヒアリングを基に、受注予定金額及び予定時期を見積もったうえで、予想売上高を算出しております。

以上の結果により、データサイエンスサービスの2020年12月期第3四半期累計期間の売上高は、新規顧客のストック収益獲得により42百万円となり、2020年12月期通期の売上高は、51百万円（前期比9.0%増）を見込んでおります。

(売上原価、売上総利益)

売上原価は、不正検知サービスにおいては、主として労務費、外注加工費、データ費及びサーバー費、決済コンサルティングサービスにおいては、主として労務費及び外注加工費、データサイエンスサービスにおいては主に労務費で構成されております。

労務費及び外注加工費は、各サービスにおける前期実績金額及び2020年12月期の売上高予測に基づき算出した発生見込み額を勘案して見積もっております。

データ費及びサーバー費は、不正検知サービスにおける前期実績金額及び2020年12月期の審査件数予測に基づき算出した発生見込み額を勘案して見積もっております。

以上の結果により、2020年12月期第3四半期累計期間の売上原価は192百万円、売上総利益は426百万円となり、2020年12月期通期の売上原価は262百万円(前期比5.8%増)、売上総利益は545百万円(前期比9.8%増)を見込んでおります。

(販売費及び一般管理費、営業利益)

販売費及び一般管理費は、主として、人件費、広告宣伝費、業務委託費で構成されております。

人件費は、人員計画及び実績昇給率に基づき見積もっております。2020年12月期末の従業員数(パートタイマーを除く)は、管理部門の人員増強、各サービスにおける営業体制の強化、不正検知サービスにおけるシステム開発体制の強化、データ分析体制の強化等を図るため、前期末の20名から8名の増員を見込み28名(前期比40%増)を計画しており、人件費は190百万円(前期比26.6%増)を見込んでおります。

広告宣伝費は、オウンドメディアの運用、WEBマーケティング及び記事広告出稿を積極的に実施する方針のもと、各施策の実施計画に基づき見積もっており、23百万円(前期比29.7%増)を見込んでおります。

業務委託費は、ロゴ、コーポレートサイト等の改定を伴うコーポレートアイデンティティの刷新等に係る費用を見込むものの、不正検知サービスに係るシステム開発の一部を業務委託から当社社員による開発に切り替えたことから、79百万円(前期比5.9%減)を見込んでおります。

以上の結果により、2020年12月期第3四半期累計期間の販売費及び一般管理費は298百万円、営業利益は128百万円となりましたが、第4四半期において、コーポレートアイデンティティの刷新等に係る業務委託費及びオウンドメディア等のWEBサイトのコンテンツ拡充に係る広告宣伝費等が計上され2020年12月期通期の販売費及び一般管理費が429百万円(前期比7.8%増)となることから、営業利益は116百万円(前期比17.9%増)を見込んでおります。

(営業外損益、経常利益)

営業外収益は、受取利息等のみを前期実績に基づき見込んでおります。

営業外費用については、借入金に対する定常的な支払利息等の発生のほか、新規上場に関する費用を見込んでおります。

以上の結果により、2020年12月期第3四半期累計期間の経常利益は121百万円となりましたが、第4四半期において新規上場に関する費用18百万円が計上されることに伴い、2020年12月期通期の経常利益は91百万円(前期比0.1%増)を見込んでおります。

(特別損益、当期純利益)

特別利益及び特別損失は現時点において見込んでおりません。

税金費用については、繰延税金資産の増加等に伴う法人税等調整額の発生により、△4百万円(前期は△25百万円)を見込んでおります。

以上の結果により、2020年12月期第3四半期累計期間の当期純利益は129百万円となりましたが、第4四半期における新規上場に関する費用等の計上に伴い、2020年12月期通期の当期純利益は96百万円（前期比15.9%減）を見込んでおります。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上



2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年12月17日

上場会社名 かっこ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4166 URL https://cacco.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 岩井 裕之
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理部門管掌CFO (氏名) 関根 健太郎 TEL 03 (6447) 4534
 四半期報告書提出予定日 — 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の業績 (2020年1月1日～2020年9月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	619	—	128	—	121	—	129	—
2019年12月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	55.23	—
2019年12月期第3四半期	—	—

- (注) 1. 2019年12月期第3四半期において、四半期財務諸表を作成していないため、2019年12月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。
 2. 「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」については、潜在株式が存在するものの、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので、記載しておりません。
 3. 当社は、2020年9月9日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり四半期純利益金額」を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第3四半期	1,242	622	49.8
2019年12月期	894	494	54.9

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 619百万円 2019年12月期 490百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	—	—	0.00	0.00
2020年12月期	—	—	—	—	—
2020年12月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年12月期の業績予想 (2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	808	8.5	116	17.9	91	0.1	96	△15.9	41.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社は年次での業務管理を行っておりますので、第3四半期(累計)の業績予想の記載を省略しております。当社は、2020年9月9日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。2020年12月期の業績予想における1株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期3Q	2,337,081株	2019年12月期	2,337,081株
② 期末自己株式数	2020年12月期3Q	一株	2019年12月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期3Q	2,337,081株	2019年12月期3Q	2,337,081株

(注) 当社は、2020年9月9日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的状況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間(2020年1月1日～2020年9月30日)における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあります。このところ持ち直しの動きが見られます。世界経済情勢におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、金融資本市場の変動などのリスクがあり、景気の先行きは不透明な状況となっております。

消費者向け電子商取引(BtoC-EC)市場は、経済産業省による2019年の調査「令和元年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業(電子商取引に関する市場調査)報告書」によると、前年比7.65%増の19.3兆円となり、依然として高い成長率を維持しております。一方、クレジットカード番号等の情報を盗まれ不正に使われる「番号盗用被害」が急増している近年の状況を受け、改正割賦販売法において、クレジットカード番号等の不正な利用を防止するために必要な措置を講じることが義務化され、また、その実務上の指針となる、「クレジットカード・セキュリティガイドライン1.0版(クレジットカード取引セキュリティ協議会)」においては、非対面取引におけるクレジットカードの不正利用対策として、加盟店に対して「属性・行動分析(不正検知システム)」等の方策をリスク状況に応じて導入することが求められるなど、不正対策に対する社会的要請はますます高まっております。

このような経済状況のもとで、当社は、引き続き不正注文検知サービス「O-PLUX」の販売拡大に努めてまいりました。既存顧客の持続的な成長とともに、オウンドメディアの立ち上げ等マーケティング活動による認知度向上及び新規顧客開拓に努めた結果、当第3四半期累計期間の「O-PLUX」のストック収益額(定額課金である月額費用と審査件数に応じた従量課金である審査費用の合計額)は430,876千円(前年同期比12.7%増)に拡大しました。また、2020年5月には、旅行、チケット、Webサービスの各業界に特化した不正検知サービスの提供を開始しました。不正アクセス検知サービス「O-motion」においては、日本ヒューレット・パッカー株式会社の提供する多要素認証基盤IceWall MFAとの連携を完了させるなど、機能充実を図りつつ引き続き多分野での販路開拓に取り組んでいます。その他、後払い決済に関するシステム提供及びコンサルティングを行う決済コンサルティングサービスや、AI、統計学、数理最適化等データサイエンスにおける最適な技法を用いて分析し、アルゴリズムを開発・提供するデータサイエンスサービスを提供しております。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は619,329千円、営業利益128,345千円、経常利益121,050千円、四半期純利益129,081千円となりました。

なお、当社はSaaS型アルゴリズム提供事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は906,036千円となり、前事業年度末に比べ210,831千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が207,263千円増加したことによるものであります。固定資産は336,620千円となり、前事業年度末に比べ137,134千円増加いたしました。これは主にソフトウェア仮勘定が87,934千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は1,242,657千円となり、前事業年度末に比べ347,965千円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は314,896千円となり、前事業年度末に比べ157,692千円増加いたしました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が170,960千円増加したことによるものであります。固定負債は305,422千円となり、前事業年度末に比べ62,201千円増加いたしました。これは主に長期借入金が92,201千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は620,318千円となり、前事業年度末に比べ219,893千円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は622,338千円となり、前事業年度末に比べ128,072千円増加いたしました。これは主に四半期純利益129,081千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は49.8%(前事業年度末は54.9%)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期の業績予想につきましては、本日公表いたしました「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

なお、当該業績予想につきましては、本日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	590,011	797,274
売掛金	74,819	81,156
仕掛品	2,278	—
未収還付法人税等	5,784	—
前払費用	13,035	15,064
未収消費税等	5,667	—
その他	3,606	12,539
流動資産合計	695,204	906,036
固定資産		
有形固定資産	12,113	11,887
無形固定資産		
ソフトウェア	10,808	7,857
ソフトウェア仮勘定	138,990	226,925
無形固定資産合計	149,799	234,782
投資その他の資産	37,573	89,950
固定資産合計	199,486	336,620
資産合計	894,691	1,242,657
負債の部		
流動負債		
買掛金	17,388	13,779
1年内返済予定の長期借入金	19,607	190,567
1年内償還予定の社債	30,000	30,000
未払金	74,294	23,124
未払法人税等	290	25,400
未払消費税等	—	16,708
賞与引当金	6,652	6,796
その他	8,972	8,520
流動負債合計	157,204	314,896
固定負債		
長期借入金	138,221	230,422
社債	105,000	75,000
固定負債合計	243,221	305,422
負債合計	400,425	620,318
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	276,211	276,211
利益剰余金	114,488	243,570
株主資本合計	490,700	619,781
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	265	△742
評価・換算差額等合計	265	△742
新株予約権	3,300	3,300
純資産合計	494,266	622,338
負債純資産合計	894,691	1,242,657

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
売上高	619,329
売上原価	192,660
売上総利益	426,669
販売費及び一般管理費	298,323
営業利益	128,345
営業外収益	
受取利息及び配当金	58
受取手数料	11
還付加算金	55
営業外収益合計	125
営業外費用	
支払利息	4,941
株式交付費	2,000
その他	479
営業外費用合計	7,420
経常利益	121,050
税引前四半期純利益	121,050
法人税、住民税及び事業税	18,538
法人税等調整額	△26,569
法人税等合計	△8,031
四半期純利益	129,081

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴う会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症は、経済、企業活動に広範な影響を与える事象であり、また、今後の広がり方や収束時期等を予想することは困難であります。当社は、当四半期会計期間末時点で入手可能な外部の情報等を踏まえて、今後、一定期間にわたり当該影響が継続するとの仮定のもと、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っています。

(セグメント情報等)

当社は、SaaS型アルゴリズム提供事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。